

地域連携

地域ボランティア論

《担当者名》○西郷 達雄 (t-saigo@hoku-iryu-u.ac.jp) 富家 直明 池田 宏(非常勤講師) 小峰 彩椰(特別講師) 山谷 文人(特別講師) 高田 光(特別講師) 西田 篤人(特別講師) 浜頓別町職員(特別講師)

【概要】

本授業は、地域におけるボランティア活動を社会教育および生涯学習の高度な実践として位置づけ、地域の心理社会的な課題を多角的に分析・共有する力を養う。将来の人口減少社会を見据え、医療系職種を含む多様な主体との連携(多職種連携)における自身の役割を理解し、心理科学的な専門性を地域課題の解決にどう活かせるかを具体的に考案できるようになることを目的とする。

【学修目標】

1. 地域の複雑な諸課題に対し、住民や多職種と協働しながら、人や町を包括的に捉える姿勢と課題解決能力を身につける。
2. 実践活動を通じて自己理解をさらに深化させ、ボランティア経験を自身の専門的キャリア形成に結びつけて考察できるようにする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	生涯学習とボランティアの高度化	本講義のガイダンスを行い、生涯学習におけるボランティアの今日的意義と心理社会的役割について学ぶ。地域ボランティア論での学びを基に、より専門性の高い実践に向けた「自身のボランティアの在り方」を再構築する。	西郷 達雄
2	地域課題解決の実際(利尻富士町)	利尻富士町における医療・教育・福祉・環境・文化等の現状を概観し、急激な人口減少社会における地域課題の解決策(地域づくり)について、多職種連携と住民協働の視点から具体的な実践モデルを考察する。	山谷 文人(特別講師) 西郷 達雄 富家 直明
3	地域課題解決の実際(江差町)	江差町における医療・教育・福祉・環境・文化等の現状を概観し、急激な人口減少社会における地域課題の解決策(地域づくり)について、多職種連携と住民協働の視点から具体的な実践モデルを考察する。	小峰 彩椰(特別講師) 西郷 達雄 富家 直明
4	地域課題解決の実際(浜頓別町)	浜頓別町における医療・教育・福祉・環境・文化等の現状を概観し、急激な人口減少社会における地域課題の解決策(地域づくり)について、多職種連携と住民協働の視点から具体的な実践モデルを考察する。	浜頓別町職員(特別講師) 西郷 達雄 富家 直明
5	地域課題解決の実際(中標津町)	中標津町における医療・教育・福祉・環境・文化等の現状を概観し、急激な人口減少社会における地域課題の解決策(地域づくり)について、多職種連携と住民協働の視点から具体的な実践モデルを考察する。	高田 光(特別講師) 西郷 達雄 富家 直明
6	地域課題解決の実際(南幌町)	南幌町における医療・教育・福祉・環境・文化等の現状を概観し、急激な人口減少社会における地域課題の解決策(地域づくり)について、多職種連携と住民協働の視点から具体的な実践モデルを考察する。	西田 篤人(特別講師) 西郷 達雄 富家 直明
7	事前研修	実習に先立ち、遠隔地域での活動に必要な専門知識、技術、および安全管理について学習する。各実習先の社会的・地理的特性を分析し、「地域住民の一員」として現場に入るための心構えについて学ぶ。具体的な活動計画を確認する。	西郷 達雄 富家 直明
8) 13	現地ボランティア実習	各市町村における北海道青少年体験活動支援施設、医療・社会教育施設・福祉施設等においてボランティア実習を行う。地域住民やとともに地域の課題解決について考える。	西郷 達雄 富家 直明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	遠隔地域における教育現場における学習ボランティア	遠隔地域の教育現場が直面する現状と課題を深く学ぶ。心理学的知見を活かした学習支援の可能性を検討するとともに、現場で求められる支援者としての誠実な「あり方・態度」について考察する。	池田 宏（非常勤講師）
15	ボランティア実習の事後学習	実習で学んだことをグループで発表し、学びを深める。ボランティア実習の振り返りを行い、その成果と今後の課題に基づく報告書を作成する。	西郷 達雄 富家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業レポート（60%）と 事前事後学習への取り組み姿勢を含めた総合評価（40 %）

【参考書】

植村勝彦（編集）、高畠克子（編集）、箕口雅博（編集）、原 裕視（編集）、久田 満（編集） よくわかるコミュニティ心理学 [第3版] 2017

日本コミュニティ心理学会研究委員会（編集）コミュニティ心理学-実践研究のための方法論 2019

【備考】

ボランティア実習に必要な活動経費は自己負担となる。初回授業ガイダンス時にて、ボランティア実習内容について説明をするので、履修予定の学生は必ず講義に出席すること。

実習先については、受講者数や実習先の受け入れ人数・状況の問題から、全ての希望に添えない場合があるので、あらかじめご了承ください。

原則として、地域ボランティア論 という特性上、地域ボランティア論 を履修していることが望ましい。

地域ボランティア論 以外の授業において欠席過多がある場合は、学生本人の修学と進級を優先させるため、実習への参加を取りやめる場合があります。

【学修の準備】

配付資料に基づいた予習、復習を行うこと。

江差町、浜頓別町、中標津町、南幌町、利尻富士町のそれぞれのホームページを閲覧し、予習復習を行うこと。

< 授業時間外学修 >

予習（90分）：配付資料に基づいた予習、復習を行うこと。

復習（150分）：学習の振り返りをし、短くまとめる。

いずれも生成AIを積極的に活用して対話、知識確認、関連情報の深掘りを行ってください。

【【ブルクレジットシステムについて】】

本授業は心理科学部臨床心理学科の研究協力者ブルクレジットシステムに従って、様々な研究への参加・協力を最大5%の加点として評価する（詳細については初回講義にて説明する）。

【【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】】

DP3：心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。

DP10：地域連携や外国語の学修を活かして地域の暮らしや支援に関する深い理解と異文化を理解し尊重する国際性を身につけている。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

西郷 達雄（公認心理師、社会教育士） 富家 直明（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

ボランティア活動に必要な臨床的かつ実践的な知識を修得できるような教育を展開する。